「コウノトリからの手紙」を意味する造語です　※コウノトリの学名「キコニア・ボイキアナ」

キコニアレター

2024.8.31 発行 No.36

コウノトリの郷公園の今

兵庫県立コウノトリの郷公園
KUGE　Takashi
園長　久下　隆史

豊かな緑に包まれたコウノトリの郷公園（以下、郷公園と書きます）は、静かな環境のもとに観光客の姿や地元の人たちの姿もよく見かけます。郷公園の近くに立つ祥雲寺巣塔では、コウノトリの姿をよく見かけます。昨年度は、大阪・関西万博に向けた兵庫県の事業「ひょうごフィールドパビリオン」の中でも特別なプレミア・プログラムに選ばれ、郷公園の発信は、世界に向けた視点が必要になってきました。

兵庫県教育委員会が平成５年にまとめた『コウノトリの郷公園（仮称）の基本構想に関する報告書』で取り上げた「野生化にむけての科学的研究及び実験的試み」は、兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科との連携で成果を上げ、昨年度にはこれまでの取り組みの成果と課題を取りまとめ、「コウノトリ野生復帰グランドデザイン～12年間の評価と今後の課題～」という報告書を出しました。郷公園での取り組みが世界で活用されるであろうという当初の予測は、今や韓国やブータンなどの関係機関との連携という形で進んでいます。

祥雲寺巣塔のヒナとJ0083（オス）

このように、郷公園の試みは但馬地域のコウノトリの野生復帰に貢献してきました。こうした試みの成果の裏には、兵庫県の取り組みとともに、豊岡市をはじめとする但馬地域の行政や市民の皆さんの協力があってこそできたことと考えています。課題として指摘されているのは、人と身近に生息するあまり、コウノトリが事故に巻き込まれることです。こうしたコウノトリをめぐる環境と事故に対する対応は今後の課題であり、すでに取り組みが進んでいるとはいえ、さらなる啓発活動が様々な機関や行政でも必要であると考えています。

7羽のコウノトリを豊岡の空に放鳥したのは19年前の平成17年のことです。今では、400羽を超えるコウノトリが全国の空に舞い、生息地も信越から九州にまで増えています。

また、人にもコウノトリにも快適な環境づくりが、但馬地域をはじめ各地で取り組まれています。今年も、孵化や巣立ちの報告が各地から入っています。今後は、但馬地域のコウノトリ野生復帰の科学的な成果を深めるとともに、全国のコウノトリの営巣地との協力関係が問われてきます。

郷公園は、来年放鳥 20 周年を迎えます。郷公園と共に、コウノトリの野生復帰を研究してきた、兵庫県立大学大学院にも関心を深めていただくとともにご支援いただきますようお願いします。

コウノトリの個体数（2024.7.31 時点）

飼育

施設・拠点名	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	27	31	0	58
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	18	20	0	38
養父市伊佐拠点	0	0	0	0
計	45	51	0	96

野外

カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県放鳥	18	12	0	30
兵庫県野外巣立ち	82	94	41	217
野生個体	1	0	0	1
他府県放鳥	10	6	0	16
他府県野外巣立ち等	97	111	4	212
計	208	223	45	476

06教Ⓟ2-014A4

兵庫県立コウノトリの郷公園
Hyogo Park of the Oriental White Stork
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
兵庫県立コウノトリの郷公園は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

～コウノトリ野生復帰グランドデザイン～ 12年間の評価と今後の課題（概要）

Ⅰ グランドデザインの12年間の評価

平成23年８月に策定した『コウノトリ野生復帰グランドデザイン』では、短期目標として８つ、中期目標として２つの課題を設定した。個体数の増加スピードは当時の想定をはるかに超えるスピードで推移しており、豊岡盆地や但馬地域の繁殖個体群はおおむね確立されたといってよい状況にある。さらには繁殖地は県外へも広がり始めている。給餌からの段階的脱出やなわばりの適正化についても、検証モデルの確立や順応的管理の手法で対応を図り、一定の成果をあげることが出来た。このような展開のなかで野生復帰のネットワークが創設され、活発な活動がはじまっている。いまやコウノトリの野生復帰は、但馬地域やコウノトリの郷公園だけで完結するものではなく、兵庫県はもちろん全国規模で考えなければならない段階に入ったと考える。

1 短期目標「安定した真の野生個体群の確立とマネジメント」

（1）豊岡盆地個体群と飼育個体群の維持
（2）給餌からの段階的脱出
（3）なわばりの適正配置
（4）豊岡盆地個体群から但馬地域個体群に拡大
（5）県外地域での繁殖個体群の創設に向けた共同研究
（6）持続的な人員育成
（7）地域づくりに向けた知識体系の創造
（8）合意形成の促進
（9）コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル（IPPM-OWS）設立と運営
（10）ジオ研究部・ソシオ研究部の拡充

2 中間目標「国内のメタ個体群構造の構築」

（1）国内メタ個体群の構築
（2）生息適地の解析の推進

飼育コウノトリの孵化したヒナ

Ⅱ 今後の課題：野生復帰から人と自然の共生に向けて

個体数だけを問題にするならば、この12年間の取り組みは予想以上の成果をあげたといえようが、現実的には今なお課題が山積する。そのなかには以前からある程度予測し得たものもあれば、急速なスピードで展開したがゆえに顕在化した予期せざるものもある。その中で確実に言えることは、コウノトリの野生復帰という営みは、まさに空を飛ぶ鳥を相手にする以上、本質的にボーダレスであるということである。兵庫県の施設として郷公園が県下の課題に取り組むべきはもちろん、一方で全国規模あるいは東アジア規模の視野に立って考えなければならない課題も存在する。その点において、今や国や各地方公共団体、関係各機関の主導や協力、連携なしには解決しない課題もあらわれていることを確認したうえで、12年間の活動を経て顕在化した課題を整理し、今後の展望とした。

ヒナに装着した足環（鳥取県八頭町）

1 コウノトリの個体群に関する課題

（1）個体数動向の把握
（2）人工物による事故への対策
（3）救護収容・死体回収体制の基盤強化
（4）感染症対策
（5）飼育・野外個体群の遺伝的多様性
（6）生息域外保全を担保する基盤強化
（7）コウノトリ保全（飼育管理）技術の継承

2 地域生物群集の保全に関する課題

（1）ハビタット整備
（2）生態系の保全へ

3 人間とコウノトリの共生に向けて

（1）人と自然の共生にかかわる知識の継承と創造
（2）自然と共生する地域づくりを担う人材の持続的養成
（3）関係各機関との広域的な連携体制の構築と推進
（4）普及啓発活動の強化・推進

郷公園のバックヤード

兵庫県立コウノトリの郷公園
主任飼育員　YOSHIZAWA Takuyoshi
吉沢　拓祥

郷公園版

【飼育ケージ紹介】

郷公園には大きく分けて、観察広場、個体、繁殖、馴化、オープンと５つのケージがあり、目的によって使用方法がちがいます。

○観察広場は公開用の生態展示ケージになり、コウノトリを間近で見ていただくことができます。

○個体ケージは個室が長屋のようになっており、１羽で飼育するため健康面など個体管理が容易にできるメリットがありますが、コウノトリの社会性を見ることができません。

○繁殖ケージはペアの繁殖用ですが、ペアになる前段階の同居飼育や幼鳥だけの集団を飼育する時にも使用します。

○馴化ケージは25m四方の大きなケージで、社会性の構築やペアリング（ペアを作る）のために集団で飼育しています。

○オープンケージは郷公園の中で１番大きな集団飼育用ケージです。救護個体や放鳥個体の飛翔確認や馴化訓練（野生に返すためのトレーニング）用として使用しています。訓練が行われないときは飼育個体の集団飼育ケージとしてしも活用しています。

繁殖ケージ

飼育管理棟

馴化ケージ

【飼育管理棟の紹介】

飼育員の事務所ですが、中にモニター室があり、繁殖期にはビデオ記録をみてコウノトリの子育ての様子を観察しています。また、救護個体を一時的に収容する部屋や卵を取り扱うための孵卵室などもあります。その他、飼育で使用する道具、バケツ置き台や巣台、止まり木など多くを手作りしており、そのための木工室や道具を整理しておく部屋なども併設されています。郷公園の特別公開のときには見学できますので、ぜひ見に来てください。

モニター室

調餌室

救護室

保護増殖センター版

保護増殖センターには1965年に建てられたコウノトリ専用の第１フライングケージ、通称「約束のケージ」をはじめ番号が付いたケージ（第12ケージまで）があります。非公開施設のためあまり知られておりませんが、様々な形状をしており、主に飼育個体の繁殖やペアリングなどを行っています。

また、郷公園と同じ機能をもった飼育事務所、育雛棟、エサ場など飼育に関する施設も敷地内に併設されています。保護増殖センターを特別公開するイベントもありますので、その際にはコウノトリ保全の歴史を体感しにぜひお越しください。

約束のケージ

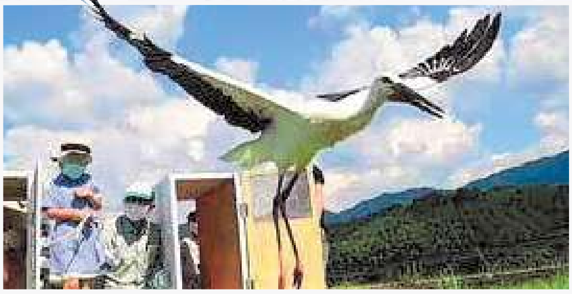
「記録的な」という言葉がすっかり珍しくなくなった近年の夏。刺すような暑熱との格闘は今日も続く。まとまった時間がとれる夏休みは本来、フィールドワークにはもってこいの季節なのだが、近ごろは野外に出るにも熱中症から危険生物、集中豪雨など、いろいろな対策が欠かせなくなった。猛暑との「共生」はなかなかうまくはいかないが、汗水流して得たデータはかならず財産になる。　（望鶴生）

No.36
RRM column
兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科コラム

INFORMATION

ふるさとひょうご寄附金でコウノトリ野生復帰プロジェクトを応援してください。

　当園では全国の皆さまのご協力を得ながらコウノトリの保護増殖と野生復帰に取り組んできました。しかし、まだ道半ばの状態にあり、特に昨今では飛来地や繁殖地が全国的に拡大したことで、当園の技術的支援の必要性が高まっています。また、野外コウノトリの増加に伴い、救護個体の増加や近親婚の発生など新たな課題への対応や、遺伝的な多様性確保のための国内外の施設とのさらなる連携が重要となってきています。
　これらの取り組みを進めていくためにも本プロジェクトへのご賛同・ご支援をお願いいたします。本プロジェクトの詳しい内容は、郷公園 HP に掲載しています。


里親飼育したコウノトリの放鳥（朝来市）

申込方法

1 ふるさと納税ポータブルサイトによる申込み　ふるさとチョイス　楽天ふるさと納税

または

2 寄附申出書による申込み

特典例

共　通 ▶ 広報誌「キコニアレター」の送付、寄附者向け特別イベントのご案内
寄附額１万円以上 ▶ 郷公園オリジナルグッズの進呈（兵庫県外にお住まいの方が対象）
寄附額 10 万円以上 ▶ 飼育コウノトリの愛称命名権（２年間）

ご報告とお礼

令和５年度は、18件、合計245,000円のご寄附をいただきました。（令和６年３月31日時点）
引き続き兵庫県立コウノトリの郷公園では、プロジェクトに賛同いただき、ご支援いただける方を募っています。

秋のイベント案内

コウノトリへのえさやり体験 ～野生復帰の舞台裏を知ろう～

令和6年9月15日（日）

非公開エリアで飼育するコウノトリの餌の配合や給餌を体験し、コウノトリについて学びます。

秋の郷公園の魅力発見！特別ガイドウォーク

令和6年9月22日（日）

園内の動植物や非公開エリアをご案内し、コウノトリの保護増殖と野生復帰を学びます。

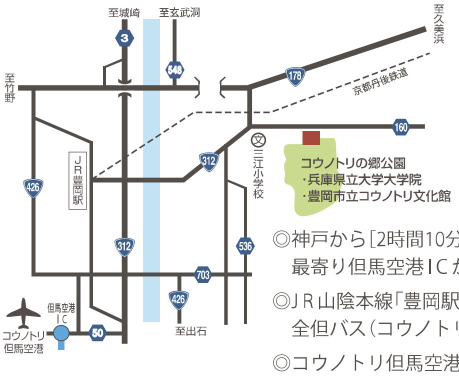
開園25周年記念 「郷公園デー ～非公開エリア特別公開～」

令和6年10月19日（土）・20日（日）

兵庫県立コウノトリの郷公園の開園日を記念して、非公開エリアを特別に公開します。「郷公園クイズラリー」や「特別企画展」、「体験コーナー」などがあり、大人も子どもも楽しめます。

※イベントの日程や内容は予定であり変更することがあります。詳しくは、事前に郷公園ホームページや SNS 等でお知らせしますので予めご了承ください。

ACCESS！



◎神戸から［2時間10分］　姫路から［1時間45分］
　最寄り但馬空港ＩＣから20分
◎ＪＲ山陰本線「豊岡駅」から4.5km
　全但バス（コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き）
◎コウノトリ但馬空港から約12km

編集後記

　今年度、郷公園は開園25周年を迎えました。野外のコウノトリが400羽を超え、郷公園近くの祥雲寺巣塔では、今年度 J0083（オス）とエヒメに代わった J0273（メス）がペアになり、無事２羽のヒナの巣立ちを迎え、新たな世代へ命を引き継ぎました。
　郷公園では幼児や児童生徒たちへ、コウノトリの野生復帰に関する講話や生き物調査等による環境教育を行っています。環境学習での体験を通して小さな感動や気付き学びが、人間とコウノトリや自然との共生のための知識や技術の継承に繋がり、共生への様々な取り組みを創造する人材の養成にも繋がっている活動であると感じています。逞しく自然界を生き抜くコウノトリに負けないように、地道に着実に次世代へ引き継いでいきたいと思います。

（社会教育推進専門員　岡田厚志）

兵庫県立コウノトリの郷公園
Hyogo Park of the Oriental White Stork
兵庫県豊岡市祥雲寺 128　tel：0796-23-5666　fax：0796-23-6538
開園時間：9：00～17：00
休 園 日：毎週月曜日（休日に当たるときはその翌日）12月28日～1月4日
e-mail：kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp
ホームページ：https://satokouen.jp/
facebookページ：https://www.facebook.com/satokouen/
インスタグラム：https://www.instagram.com/hyogo_satokouen/
HP　FB　インスタグラム